

はくあい

No.38

2013. July

社会福祉法人
京都博愛会



《写真》

平成25年度新入職員による消防訓練

《協力》

京都市消防局北消防署



わが町のホームドクター

●北区 白谷 英雄 様

医療の frontline

●「こわいめまいと、こわくないめまい」

新たな気持ちでスタート

社会福祉法人京都博愛会 理事長
富田病院 循環器内科

富田 哲也

今年の春は寒かったり暑かったり天候不順で体調不良になる人が多かったようですが、梅雨も半ばを過ぎて、また暑い夏が訪れようとしています。

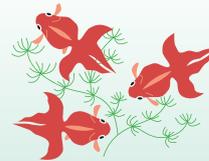
世の中は円安と株価上昇で輸出産業や株を運用している人にとってはかなり景気改善の期待が高まっていますが、日本全体がよくなるのは当分先と思われず。

とくに医療・介護分野については、社会保障費の財政再建のあたりで最も景気の改善が期待しにくい分野ですが、それでも世の中の景気は早く回復してほしいものです。

当法人では、この春に新しい常勤医の先生がたくさん来ていただき、新しい戦力として期待しています。

京都博愛会病院では5名、富田病院は1名の先生が新たに赴任されました。京都博愛会病院には神経内科の大井長和先生、眼科の小林ルミ先生、消化器内科の小澤陸先生、影山真理先生、精神科では後期研修医の山田晶子先生、富田病院には神経内科の鹿毛真人先生に来ていただいています。いずれも経験豊富で信頼できる先生方ですので、ご紹介よろしく願います。その他、富田病院では非常勤で神経内科の加藤智信先生にも来ていただき、両病院で神経内科が充実しましたので、高齢社会でのさまざまな神経疾患に対応していきたいと思っております。

それから、昨年に富田病院の血管造影装置（アンギオ）を新しい装置に入れ替えたことで格段に画像が良くなり、カテーテル治療もやりやすくなりました。このような体制で本年も新たな気持ちでがんばりますので、よろしく願います。



【博愛】博愛の精神に基づいて、患者さまや地域の人々にやさしく、親しまれ、信頼される病院を目指します。

基本理念

【協調】患者さまを中心に協調の精神でチーム医療を行います。

【健康】私たち自身の心と身体の健康に留意し、良い医療・介護・福祉を提供します。

『こわいめまいと、こわくないめまい』

京都博愛会病院 顧問 大井 長和 (神経内科)

めまいとは、周囲が揺れる感じ、あるいは回る感じをさします。初めて、めまいを覚えただ方は、びっくりし、病院を受診されるかと思えます。

よくあるめまいは、朝起きる時や座って頭を動かした時に起こり、非常に短時間で治ります。このめまいは、耳の奥にある三半規管が刺激されて生じるもので、「良性発作性頭位性めまい (BPPV)」と呼ばれます。医師がこの病気を疑った場合は、頭を様々に動かしてめまいを誘発して確認をします。この疾患は、自然に治りますし、また、リハビリテーションにより再発を予防でき

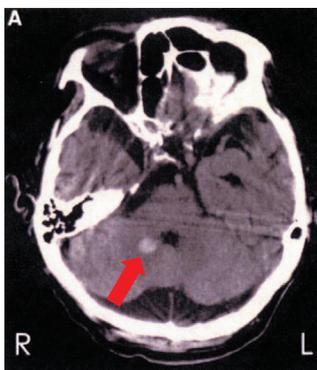
ることから「こわくないめまい」です。BPPVに次いで多いめまいの病気として、急性前庭神経炎があります。この病気も急にめまいが発現し、ずっと持続します。また、頭の位置でめまいが変わりません。幸い、この病気も数時間から数日で治ります。

BPPVと同様な症状をします「悪性発作性体位性めまい」という病気があり

中枢性発作性頭位性めまい

矢印の先の白い部位が、小脳の小出血です。末梢性発作性頭位性めまいと同じ症状ですが、歩行時のふらつきがあるために区別ができます。

(Johkura K: Stroke 38, 2007から引用)



ます。この病気では、反復による症状の軽快がなく、歩行障害もあります。原因は、小脳梗塞や小脳出血であり、脳CTや脳MRIで確認をします。また、急性前庭神経炎と同じ症状が、やはり小脳梗塞でも発現することがあり、歩行障害も伴い、これは偽性前庭神経炎と呼ばれます。

このように、数こそ少ないですが、めまいが脳卒中として起こることがあり、「こわいめまい」と言われます。急にめまいが起こり、しかも持続するときには、神経内科の受診をおすすめします。

看護物語

看護師になって

富田病院 看護部 橋川 麻理子

私は昨年の春に看護学校を卒業し、富田病院に就職した新人看護師です。

入職して二週間は、外来で診察や各検査、手術の見学と研修をさせて頂き、そして病棟へ配属されました。入職当初は、看護学校では経験できなかった看護技術を実際に行うことに新鮮な気持ちと、「看護師になったんだ」という思いでした。しかし、日がたつにつれ看護師としての責任の重さや、わからないことの多さにプレッシャーと不安が大きくなっていました。不安に押し潰されそうになることもありました。不安に押し潰されそうになることもありませんでしたが、院外の研修への参加や先輩スタッフの方々が気にかけて下さり、一つ一つ丁寧に指導して下さいました。それが少しずつ不安の解消に繋がりました。また、患者さんとの関わりや治療経過を通して指導して頂いたことを元に、振り返りやイメージトレーニングを行うことで自分の課題を見つけて、次に繋げていけるようにする姿勢が持てました。

実際にはまだわからないことも多く、突然のことには頭が真っ白になり動けないといったことも多いですが、自己の知識を深め、一つ一つの経験を次へと活かせる様に努めて、日々、看護師として成長していきたいと思えます。



放射線科のご紹介

富田病院 放射線科 科長
横瀬 圭三

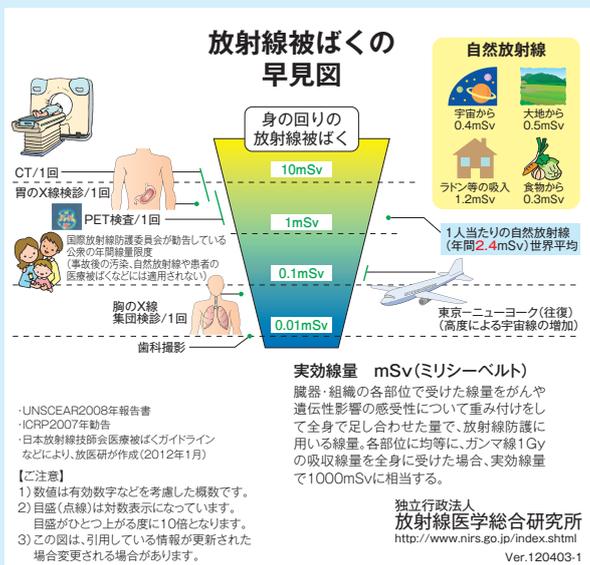
当会の放射線科は、京都博愛会病院4名、富田病院3名体制で業務に従事しています。

両病院とも基本的に一般撮影（胸部・腹部・骨等レントゲン写真と呼ばれているもの）やCT（短い筒の中に入ってX線を使って身体の中を撮影）・透視（主に内視鏡やバリウムを使って消化器等の検査）・骨塩定量検査（骨の量を調べる）・回診用の撮影装置で病棟へ行って撮影しています。

各病院の特長としては、京都博愛会病院では消化器関係の検査が多く、また磁気を使って脳や脊髄等を検査するMRIがあります。富田病院では循環器の検査を主に行っており、心臓を撮影可能な64列のCTや血管撮影装置もあり、検査のみでは無く心血管の治療も行っています。最近ではアブレーション治療と言って心房細動等不整脈の治療も行っています。

最近、画像診断検査に伴う被ばくを心配される患者さんが増えてきていますが、病院での被ばくは「医療被ばく」と言い、治療の為に必要なものになります。だからと言って多くのX線を照射しても良いものではなく、例えば胸部レントゲンの被ばく量は飛行機で東京からニューヨークへ行く場合の3分の1程度です「早見図参照」。

他の検査に於いても京都博愛会病院ではCTや透視装置、富田病院では血管撮影装置を更新し、撮影機器の面でも出来る限り少ないX線照射で検査できるように努めています。また、撮影する技師は常に勉強し、被ばく低減に心がける様に取り組んでおりますので、何かご心配やご質問があれば遠慮なく放射線科へお尋ね下さい。



わが町のホームドクター

北区 白谷 英雄

患者の病を治すも一つの療法

今から42年前、よもや家族が癌で亡くなる…。夢にも思わなかったことが現実になり！それも私にとつて一番大切な母親が、56歳で他界しました。

私の出身地である兵庫県但馬の豊岡から母の様子気がになり、当時、富田病院 外科部長(後の病院長) 高岡水東先生に、ご診察をお願いし、神をもすがの気持ちで母の病状を診て頂きました。結果は最悪でした。胃を突き破つて横行結腸に癌が転移、「白谷君、手遅れだ」といわれ、「今後延命処置治療をするから君と近くにいるらっしゃる妹さんと親孝行しなさい。」高岡先生が医者として最善を尽くすと云わ

れ、兄妹で先生の御厚意に感謝し甘えることにしました。その後、母は10月までの命が、高岡先生のお蔭で年を越し3月3日「女の節句」である「ひな祭り」に56歳の生涯を終えました。私は、お医者さんにもう一つの患者と家族の「絆」の大切さをおしえて頂きました。

その後、妹が結婚して(8年間) 子供に恵まれなかったのに、母が亡くなった翌年に男の子が誕生しました。奇跡でした。その後、私の妻の母が、安倍隆二先生(現在、京都博愛会病院外科)に、綾部市の病院で病名が判らなかつたにも拘らず、先

生のご診察で病名が判明、奇跡的に母の命を助けて頂きました。これまた安倍先生の激励と心の診察で励まされ、完治するまで5年、6年罹るところ2年半で退院することができました。私は思いま

した。人の命は神様から授かったもので、病院のお世話になった先生方も医学の治療ではなく、病気という漢字は「気の病」と書き、先生の言葉の励ましは何よりも病を治す患者に対するもう一つの療法だと思いました。

最後に私の両親、妻の両親、家族ともどもが京都博愛会病院にお世話になりましたことに心より感謝いたしております。ありがとうございます。

私も今現在、金院長、安倍先生に大変お世話になっております。

京都博愛会病院

新任
ドクター
紹介



神経内科顧問
おおい たけかず
大井 長和

- ◎昭和22年生まれ ◎出身地：兵庫県神戸市
- ◎専門医認定・資格等：
日本内科学会認定医・指導医、日本神経学会神経内科専門医・指導医
- ◎職歴：
神戸市立中央市民病院で初期研修、九州大学神経内科でレジデント研修、神戸大学第3内科、京都大学原子炉実験所、京都大学第2内科、メイヨークリニック神経内科、高槻赤十字病院神経内科、宮崎医科大学第3内科、ジョンズ・ホプキンス大学神経内科、トロント大学神経内科、兵庫県立塚口病院神経内科、倉敷中央病院神経内科、京都市立病院神経内科、平成25年4月から京都博愛会病院勤務。
- ◎今後の抱負：
神経疾患のみならず、多数の疾患を持つ高齢者の診療をしっかり実践していきたいと考えます。また、神経内科研修を希望する若い先生の指導を行って、患者さんと若い医師から学ぶ機会を作り、医療の質を上げたいと思います。



内科副部長
おざわ まこと
小澤 睦

- ◎昭和38年生まれ ◎出身地：京都府京都市
- ◎職歴：
静岡県立総合病院・京都大学医学部附属病院、京都警察病院、亀岡シミズ病院、平成25年5月より京都博愛会病院勤務。
- ◎専門医認定・資格等：
日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医
- ◎趣味・特技：テニス、映画
- ◎今後の抱負：
高齢者の方にやさしい、無理のない医療を心掛けたいと思います。
内視鏡及び肝臓関係にも携わりたいと思います。よろしくお願ひします。



眼科医長
こばやし
小林 ルミ

- ◎昭和40年生まれ ◎出身地：愛知県
- ◎職歴：
平成3年京都府立医科大学付属病院眼科学教室入局、その後社会保険京都病院、松下健康管理センター、公立南丹病院、京都第二赤十字病院、京都第一赤十字病院を経て平成25年4月から京都博愛会病院勤務。
- ◎専門医認定・資格等：日本眼科学会眼科専門医
- ◎趣味・特技：旅行、ピアノ
- ◎今後の抱負：
適切な診断と治療、丁寧な説明で皆様に満足していただける医療を提供できますよう常に心がけ、努力していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



消化器内科
かげやま まり
影山 真理

- ◎昭和58年生まれ ◎出身地：大阪府
- ◎職歴：
平成20年京都第二赤十字病院にて初期研修。平成22年京都第二赤十字病院消化器内科。平成25年4月より京都博愛会病院勤務。
- ◎専門医認定・資格等：日本内科学会認定医
- ◎趣味・特技：料理、旅行
- ◎今後の抱負：
美しい自然の中で、日々臨床に励んでいます。それぞれの患者さんに最適な医療を提供できるよう努力していきます。

富田病院



内科部長（神経内科）
かげ まこと
鹿毛 真人

- ◎昭和37年生まれ ◎出身地：福岡県
- ◎職歴：平成3年京都大学医学部付属病院神経内科入局、平成4年大阪赤十字病院神経内科、平成11年洛和会音羽病院神経内科、平成14年大津赤十字病院神経内科、平成16年柳馬場武田クリニック、平成23年木津屋橋武田病院、平成25年4月から富田病院勤務。
- ◎専門医認定・資格等：
日本内科学会認定医、日本神経学会神経内科専門医・指導医、日本医師会認定産業医
- ◎趣味・特技：カメラ、音楽鑑賞、地図を眺めること
- ◎今後の抱負：
患者さんの不安や悩みに寄り添い、地域医療に貢献できるように微力ながら日々努力していきたいと思っております。

京都博愛会病院

TEL:075-781-1131 〒603-8041 京都市北区上賀茂ケシ山1
<http://www.kyoto-hakuaikai.or.jp/hakuai/>

富田病院

TEL:075-491-3241 〒603-8132 京都市北区小山下内河原町56
<http://www.kyoto-hakuaikai.or.jp/tomita/>

訪問看護はくあい
ステーション

TEL:075-491-2711 〒603-8041 京都市北区上賀茂ケシ山1
http://www.kyoto-hakuaikai.or.jp/hakuai_nursing/

デイケアセンターとみた

TEL:075-491-0700 〒603-8132 京都市北区小山下内河原町69
http://www.kyoto-hakuaikai.or.jp/tomita_care/